

特集

スペシャリスト厳選！定番ベスト漢方薬 教えて！鉄板・新定番・大穴処方

特集にあたって

1976年（昭和51）年に漢方エキス製剤が全面的に保険適用となって半世紀が経過しようとしています。このことは確かに素晴らしいことです。堅持していくべき制度です。その後「漢方薬には副作用がない」といった神話、「西洋医学では対応できないさまざまな病態に有効」といった喧伝を背景に、飛躍的にその使用量が増えた時期もありました。確かに、漢方が多くの患者さん・病人さんの福音となったことは事実でしょう。しかし、漢方が西洋医学を中心に仕事をされている先生方に本当に受け入れられていたのかを考えると、どうも疑問です。「効いた、効かない」を「西洋医学に対してどうなのか」という図式にあてはめ過ぎたのか、「驚くべき効果」が強調され過ぎたのか、せっかく漢方の世界に興味をもち、まじめに勉強しようと取り組まれていた多くの心ある先生方が離れていかれた残念な歴史を経験しました。

今回本企画をコーディネートさせていただくにあたり、各専門分野の西洋医学の第一人者であり、かつ漢方医学の若手スペシャリストの先生方に、得意とされている処方の解説をお願いしました。「適応症」を外すことなく、「なるほど、こういった役割がこの方剤にはあるのか」という新知見を教えていただくことで、薬剤師の先生方が日ごろ疑問に感じられることもある臨床医の処方内容の「勘どころ」「本音」がみえてく

るはずです。

わが国では「伝統医学だけで治療する」医師はいません。すべて同一の免許証をもち、西洋医学を土台とした診療体系のなかで漢方診療を行っています。しかし、それは単なる「補完」ではありません。漢方医学には独自の基礎理論と治療方針があります。西洋医学の「診断」と漢方医学の「証」の理解をあわせた診療の実際も、各先生方の臨床のなかで学ぶことができるでしょう。さあ、ワクワクしてページをめくってください。そして、この書をいつも日常業務の書棚の定位置に置いてください。よろしくお願いします。

奈良県立医科大学 大和漢方医学薬学センター 特任教授/

三谷ファミリークリニック 院長

三谷 和男